

企画展

山崎遺跡発掘出土品展



平成 18・19 年度第 2 号住居跡

平成 22 年 4 月 24 日(土)~7 月 11 日(日)

(休館日 5 月 6・7・10・11・17・24・31 日、
6 月 7・14・21・28 日、7 月 5 日)

宮代町郷土資料館

南埼玉郡宮代町字西原 289 TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>

開催にあたって

埼玉県選定遺跡山崎遺跡は、宮代町で最も多くの発掘調査が実施されてきました。古くは昭和50年度の学術調査、最近では平成21年10月の個人住宅建設による発掘調査です。しかし、平成14年度以前の発掘調査は町道建設などが多く、部分的な調査のため詳細な遺跡の概要は分からない状況でしたが、平成18・19年度の調査は計約2,000平米にも及ぶ調査であったため、数多くの土器や石器と共に住居跡も4軒発掘されています。今回の企画展は平成18・19年度の発掘調査をメインとして、山崎地区に展開した縄文時代と古墳時代の集落について、住民の方々に発掘調査の成果を公表するため企画したものです。

宮代町郷土資料館



平成18年度第1号住居跡実測風景

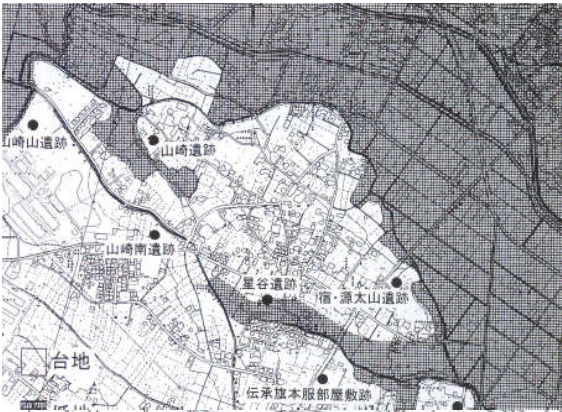
凡例

- 1 本書は平成22年4月24日から7月11日にかけて開催される企画展「山崎遺跡発掘出土品展」の展示図録です。
- 2 本書並びに展示した写真の殆どは当館学芸員河井伸一が撮影いたしました。
- 3 本展の企画及び図録の編集等は河井が担当しました。なお、展示については資料館職員等が協力して行いました。

山崎遺跡の位置と周辺環境

山崎遺跡は、宮代町の中央やや南側に位置し、さいたま市岩槻区大字慈恩寺から白岡町大字太田新井や大字爪田ヶ谷から続く大宮台地の一支台である慈恩寺支台上にあります。慈恩寺支台は、宮代町字山崎付近で山崎遺跡の所在する半島状の台地を分派し、字西原から字姫宮付近にかけての細長い台地と字金原から字東の西光院付近にかけての台地に分かれます。

山崎遺跡周辺は、縄文時代早期末葉から前期後半の約7,000～5,000年前には東京湾が奥深くまで到達し、宮代町付近も海に面していました。その後4,500年前になると、海は東京方面に退きますが、縄文時代後期前半の約3,700年前頃には、再び宮代町付近は海沿いのムラとなったようです。西光院遺跡ではその頃の貝塚が見つかっています。山崎遺跡でも約3,700年前頃の住居跡が多く発掘されています。



山崎地区周辺の台地と低地

山崎地区周辺の発掘調査地点



昭和 50 年度の発掘調査

昭和 50 年 7 月 21 日から 8 月 2 日にかけて行われました。調査の目的は、以前から旧石器時代の石器が散布していたことから、この当時珍しかった縄文時代草創期（約 12,000 年前）の土器を発見するため学術調査が計画されました。この時、学生を主体とした調査員や調査補助員は旧西原公民館に寝泊りしたそうです。調査の結果、旧石器時代の石器（ブランク）や縄文時代早期（約 7,000 年前）の石器製作場が 1 基、炉穴が 5 基、古墳時代後期の住居跡が 1 軒発掘されましたが、縄文時代草創期の土器は発見されませんでした。



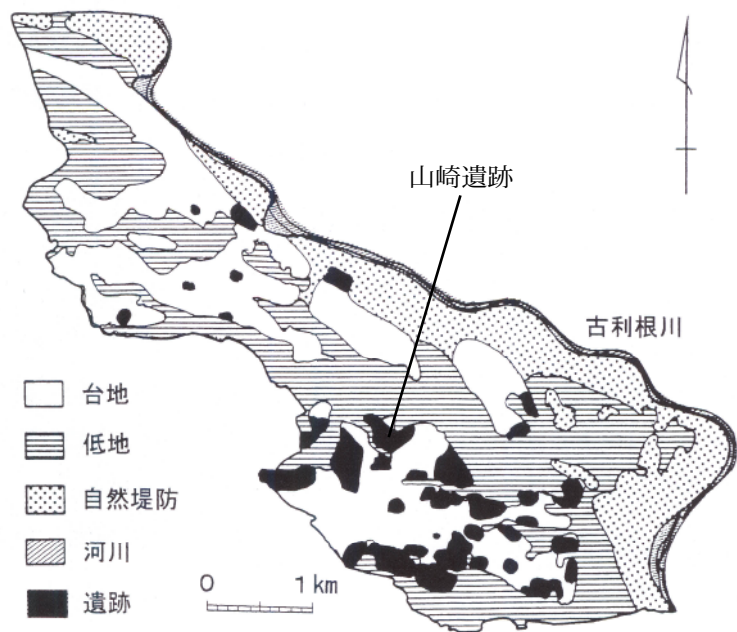
黒曜石製のブランク（昭和 50 年度出土）
細石刃核を作る過程の石器です。



古墳時代後期の住居跡



宮代町の位置



宮代町の遺跡と山崎遺跡の位置

昭和 62 年度の発掘調査

町道建設に伴い、昭和 63 年 2 月 1 日から 12 日にかけて行われました。調査の結果、縄文時代後期（約 3,700 年前）の焼失住居跡が 1 軒、土坑が 1 基発掘されました。住居跡から検出された炭化材を放射性炭素年代測定で分析した結果、3,690 年 ± 100 年前のものであることが分かりました。



調査風景（昭和 62 年度）



第 1 号住居跡（昭和 62 年度）

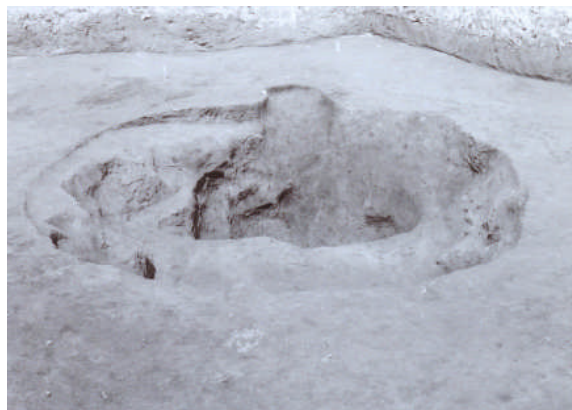
この住居跡は縄文時代後期（約 3,700 年前）のもので、調査区の関係から 1 / 3 程度しか検出できませんでしたが、多量の炭化材が検出されました。炭化材を化学分析したところ約 3,690 年 ± 100 年前のもので、樹種はクリあることが分かりました。クリは非常に硬い木質なので、縄文時代の住居の建築部材として多く利用されていたことが分かっています。

平成 2 年度の発掘調査

林の伐根作業に伴い、平成 3 年 3 月 4 日から 30 日にかけて行われました。調査の結果、縄文時代の土坑が 6 基、炉穴が 1 基、江戸時代の土坑が 4 基検出されました。本地点は他の山崎遺跡の調査地点に比べ縄文時代中期（約 4,200 年前）の遺物が多く出土しました。



調査風景（平成 2 年度）



第 8 号土坑（縄文時代）

平成 11・12・14 年度の発掘調査

農村集落総合整備事業（新しい村など）に伴い、平成 11 年 12 月 24 日から平成 12 年 3 月 7 日、平成 12 年 12 月 1 日から 25 日、平成 13 年 2 月 27 日から 3 月 8 日、平成 14 年 11 月 19 日から 28 日の 4 回に渡り発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代早期（約 7,000 年前）の住居跡が 3 軒、縄文時代後期（約 3,700 年前）の住居跡が 2 軒、縄文時代の土坑が 34 基、炉穴が 6 基、江戸時代の溝や堀が 9 条、柵列が 1 列検出されました。注目されるものとしては、江戸時代前期の堀跡が検出されたことです。大規模な堀であることから江戸時代前期の旗本や代官の陣屋や役所であったと推定されます。



平成 11 年度第 1 地点第 1 号住居跡



平成 11 年度第 1 地点第 2 号住居跡



平成 11 年度第 1 地点第 3 号住居跡



調査風景（平成 12 年度第 3 地点）



平成 12 年度第 3 地点全景



平成 12 年度第 6 地点全景



平成 12 年度第 6 地点第 4 号住居跡



調査風景 (平成 14 年度第 7 地点)



調査風景 (平成 14 年度第 7 地点)



平成 14 年度第 7 地点第 5 号住居跡



平成 11 年度第 2 地点堀跡



平成 11 年度第 2 地点堀跡



平成 11 年度第 2 地点堀内の障壁

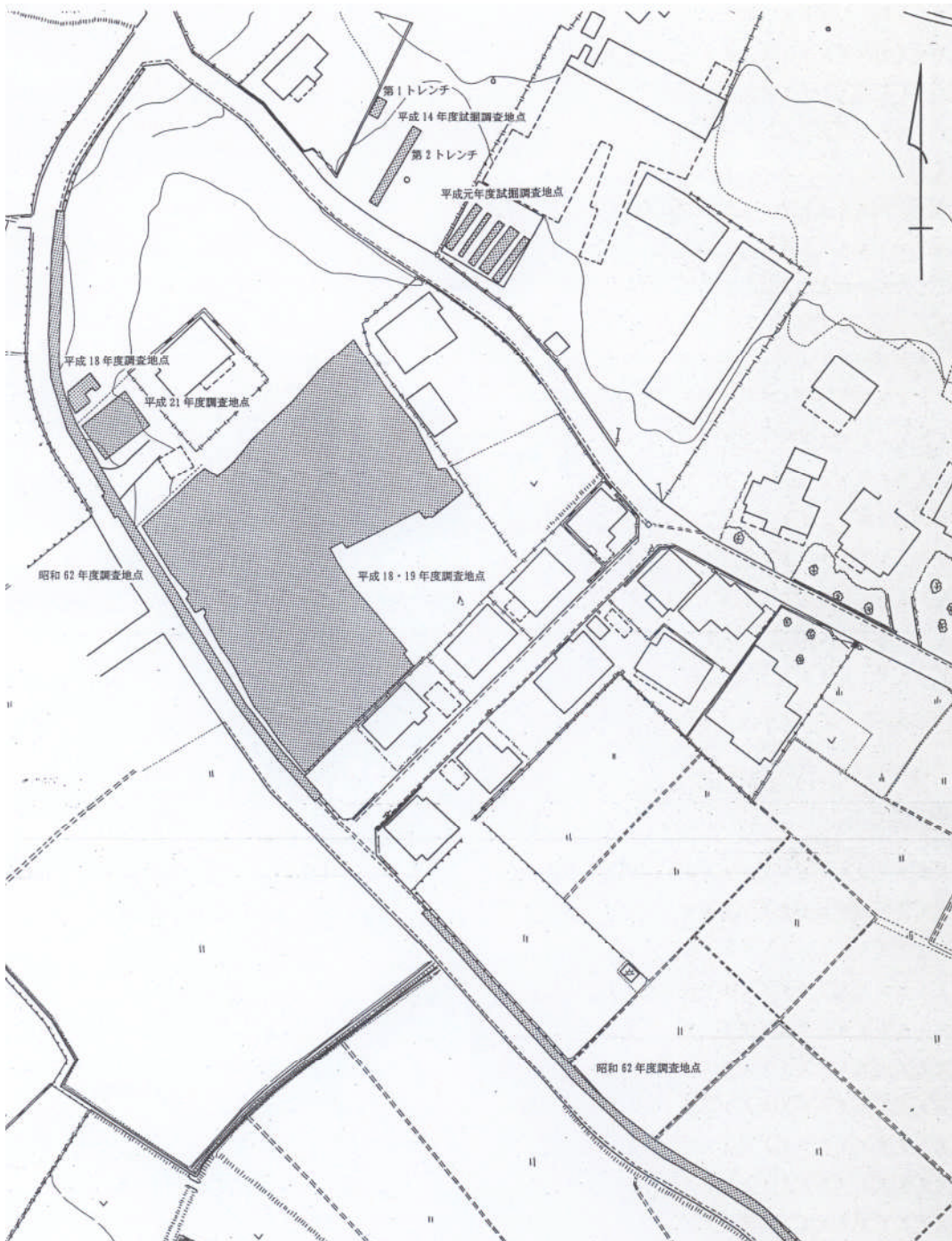


平成 11 年度第 2 地点堀跡 覆土の堆積状況

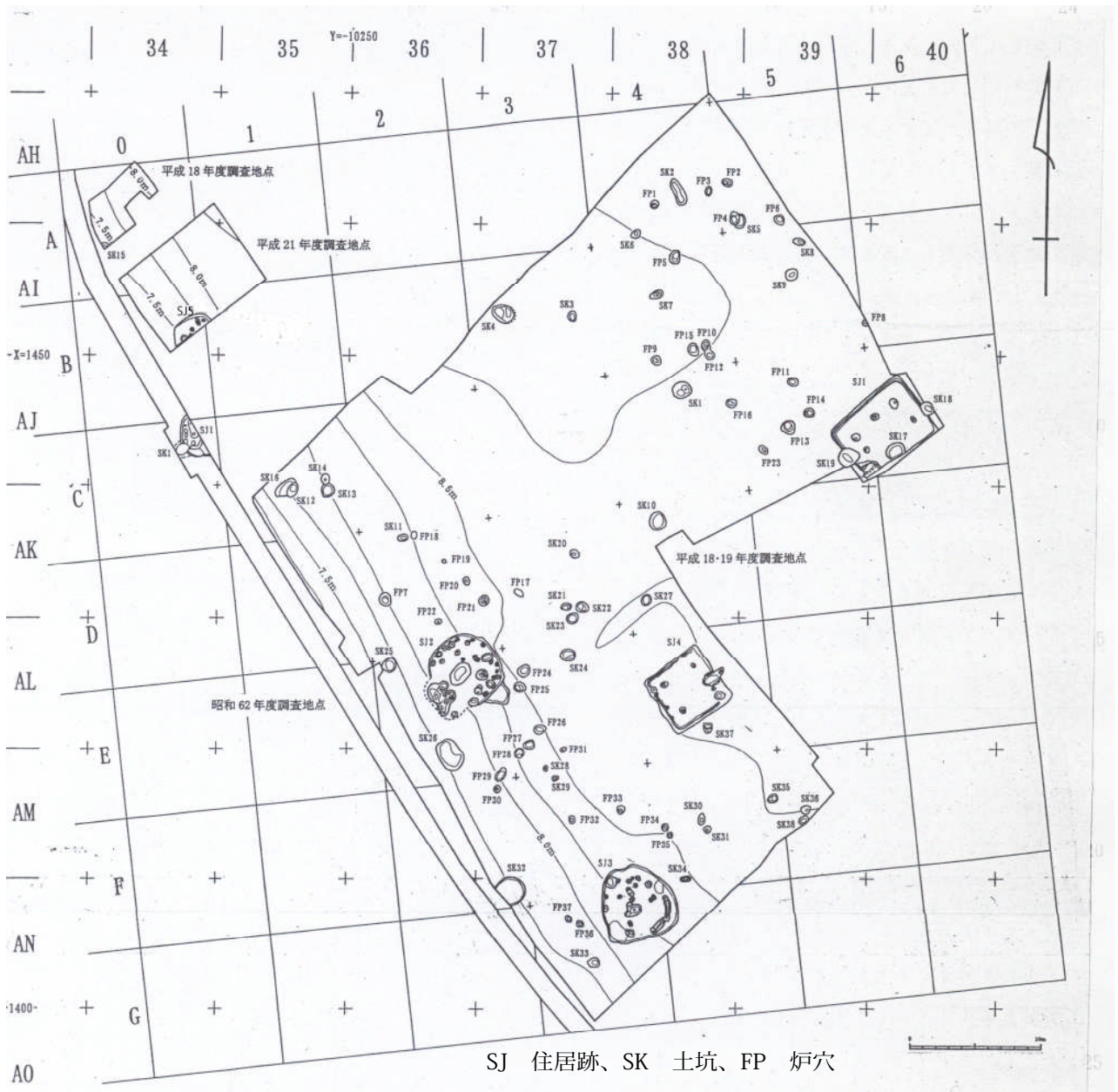
この堀は、幅 4.4m、深さ 130cm の堀で南西から北東にかけて構築されており北東端で L 字に曲がります。南側は笠原沼から続く小さい谷が入り込んでおり、堀の役目をしていただと考えられます。堀に沿って柵列も検出されました。この堀の西側には江戸時代前期の旗本や代官の陣屋や役所があったと推定されます。

平成 18・19・21 年度の発掘調査

個人住宅建設等に伴い、平成 18 年 12 月 5 日から平成 19 年 2 月 9 日、平成 19 年 4 月 17 日から 6 月 12 日、平成 21 年 10 月 15 日から 21 日にかけて行われました。調査の結果、縄文時代後期（約 3,700 年前）の住居跡が 3 軒、縄文時代の土坑が 35 基、炉穴が 37 基、古墳時代の住居跡が 2 軒、江戸時代の土坑が 3 基検出されました。殊に、台地斜面には昭和 62 年度の調査も含めると 4 軒の縄文時代後期の住居跡が並んでいたことが分かります。その内の 3 軒の住居跡からは多量に建築部材等の炭化材が出土しました。縄文時代の山崎ムラにおいて天災か人為的にムラを燃やす行為が行われた可能性があります。



発掘調査地点図



平成 18・19・21 年度全測図

第 1 号住居跡

古墳時代後期（約 1,500 年前）の住居跡です。南西側にカマドが構築されており、カマドの天井や真っ赤に焼けた煙道も検出されました。壁際からは炭化材や周溝が確認されているため、竪穴住居の壁の崩落を防ぐため、溝が掘られ板が並べられていたと考えられます。東側の一部では溝が確認されず床面が高くなっていました。恐らく、この場所が出入り口部であったと推定されます。



第 1 号住居跡完掘



第 1 号住居跡遺構確認状況



第1号住居跡調査風景（実測作業）



第1号住居跡調査風景（遺構検出作業）



第1号住居跡調査風景（遺構検出作業）



第1号住居跡床面の土器出土状況



第1号住居跡床面の土器出土状況



第1号住居跡床面の土器出土状況



第1号住居跡カマドの堆積状況



第1号住居跡カマド完掘

第2号住居跡

縄文時代後期（約3,700年前）の住居跡です。西側に入り口を持つ柄鏡形住居です。台地斜面部に立地しています。住居跡内からは多量の建築部材と推定される炭化材や焼土が検出されました。炉跡は大形で住居跡中央部で確認されました。ここからも多量の炭化材が検出されています。樹種はエノキ属や竹などでした。一部を化学分析したところ、約3,660年±30年前のものと判明しました。この住居跡の入り口は西側ですので斜面に沿って縄文時代の道が通っていたことが分かります。



第2号住居跡完掘



第2号住居跡柱穴確認状況



第2号住居跡調査風景（遺構検出作業）



第2号住居跡炉跡の堆積状況



第2号住居跡炭化材検出状況



第2号住居跡注口土器、石器出土状況

第3号住居跡

縄文時代後期(約3,700年前)の住居跡です。台地斜面に立地しています。中央部で炉跡が検出されました。この炉跡の西側に近接して上下を逆にした埋甕が出土しました。埋甕は一般的に胎盤や幼児を埋葬したといわれています。今回出土した埋甕は底部に穴が空けられており、呪術的なものと推定されます。炭化材は南側の柱穴を繋ぐように検出されていますので柱の部材であったと推定されます。化学分析をしたところ、樹種はクリで約3,770年±30年前のものと判明しました。この住居跡も炉跡と埋甕の関係から西側に入り口があったと推定されますので、本住居跡から第2号住居跡、昭和62年度第1号住居跡、第5号住居跡へと繋がる縄文時代の道が斜面に沿ってあったと推定されます。



第3号住居跡完掘



第3号住居跡遺構確認状況



第3号住居跡調査風景



第3号住居跡炭化材出土状況



第3号住居跡炉跡と伏甕



第3号住居跡伏甕

第4号住居跡

古墳時代後期（約1,500年前）の住居跡です。北東側にカマドが構築されており、第1号住居跡と向かい合います。この住居跡の覆土は中央部が黒色で、周辺部が白色粘土でした。この白色粘土はカマドの構築土と同じものでした。壁際からは炭化材や周溝が確認されているため、竪穴住居の壁の崩落を防ぐため、溝が掘られ板が並べられていたと考えられます。住居跡の壁際で検出された白色粘土はこの板材と共に住居の土壁を構築していた可能性もあり、古墳時代の住居を考えるうえで、非常に興味深いといえます。この他、カマドを補強するため使わなくなった土器を再利用していたことも確認されています。



第4号住居跡完掘



第4号住居跡遺構確認状況



第4号住居跡検出途中



第4号住居跡カマドの遺物出土状況



第4号住居跡カマドの遺物出土状況

第5号住居跡

縄文時代後期(約3,700年前)の住居跡です。調査区の関係から1/3程度しか検出できませんでした。他の住居跡と同様斜面部に立地しており、最も北側で確認された住居跡です。平成21年度地点で発掘されました。



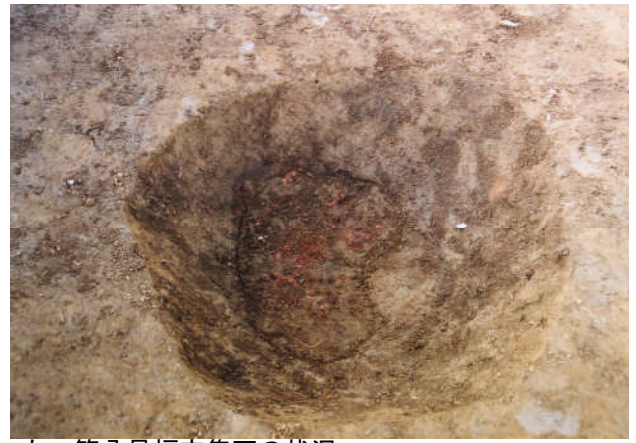
第5号住居跡



第5号住居跡調査風景

炉穴

炉穴とは、縄文時代早期後半から前期初頭(約7,000～6,000年前)に造られた屋外の炉のことをいいます。この当時、住居内には炉が造られることは少なく、屋外で煮炊きを行っていました。山崎遺跡からは37基の炉穴が発掘されています。第7号炉穴からは復元ができた土器が出土しました。この土器の上の層には石が多数纏まっていた。



左 第7号炉穴集石の状況

上 第7号炉穴完掘状況



左 第7号炉穴遺物出土の状況

右 復元された第7号炉穴出土土器
(約7,000年前)



土坑

土坑とは、集落で生活していた人々が掘った穴のことをいいます。山崎遺跡からは縄文時代後期の土坑が35基も発掘されました。第13号土坑からは多数の復元ができた土器が出土しました。この他、第12・16号土坑、第14号土坑からも復元ができる土器が出土しています。また、第23号土坑からは大型の朝顔形深鉢が、第10号土坑からは宮代町で初めて発見された土偶の一部が発掘されています。



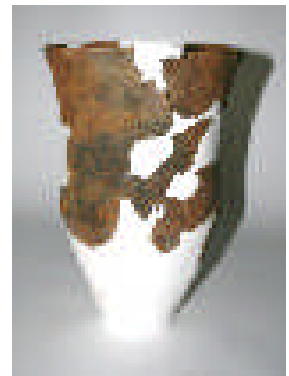
第1号土坑出土土器と遺物出土状況



第12・16号土坑遺物出土状況



第10号土坑出土土偶
(約3,700年前)



第14号土坑出土土器
(約3,700年前)



第23号土坑出土土器
(約3,700年前)



第23号土坑完掘状況



第23号土坑遺物出土状況

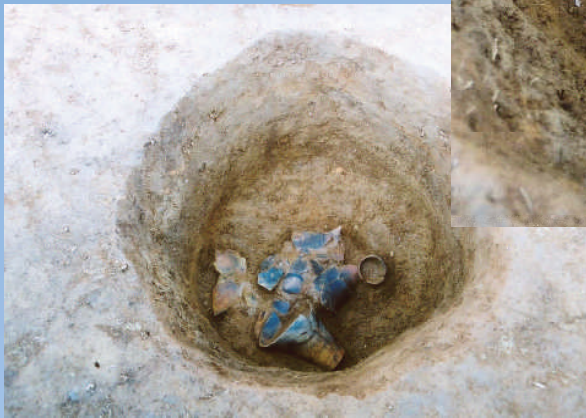
第 13 号土坑



第 13 号土坑出土土器



第 13 号土坑遺物出土状況



第 13 号土坑



第 13 号土坑出土土器



第 13 号土坑出土土器



第 13 号土坑出土土器

発行 宮代町郷土資料館
住所 南埼玉郡宮代町字西原 289
TEL 0480-34-8882
FAX 0480-32-5601
<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>